

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

FUTURE DESIGN

vol. **49**

2 0 1 7

安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする



10th Anniversary

特集●交通と都市の未来形

第10回 **未来エレベーター
コンテスト**

東芝エレベーター株式会社

TOSHIBA ELEVATOR AND BUILDING SYSTEMS CORPORATION

FUTURE DESIGN

vol. **49** 安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする
2017

(アンケートにご協力ください)

『FUTURE DESIGN』vol.49 に対するご感想をお寄せください。奥会津にある会津桐タンス(桐)が丁寧に手づくりした会津桐の茶筒「茶綾」を抽選で10名様にお送りします。同社は、桐の加工技術を継承するために設立された第三セクターで、同社の桐の米びつは国際交流基金主催の「新・現代日本のデザイン100選」に選ばれています。「茶綾」は多摩美術大学との産官学連携プロジェクトから生まれてきたスライド式の茶筒で、2013年度のグッドデザイン賞を受賞しました。桐タンスの気密性が活かされた逸品で、サイズは7.5×7.5×高さ12.5cmです。



- 応募方法
同封のはがきまたはFAX用紙、E-mailでご意見をお送りください。
- 締め切り
2017年5月31日到着分まで有効。

東芝エレベータ株式会社 FUTURE DESIGN

vol.49 2017

2017年2月28日発行 発行 東芝エレベータ株式会社 広報室
〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
電話 (044)331-7001

URL <http://www.toshiba-elevator.co.jp>

E-mail elevator@po.toshiba.co.jp

制作 有限会社イー・クラフト+有限会社ベル・プロダクション デザイン 手塚みゆき
印刷会社 株式会社メディアグラフィックス

CONTENTS

- 03-13 特集●交通と都市の未来形
第10回
未来エレベーターコンテスト
- 14-15 連載●お江戸の楽しい歩き方 第5回
赤羽周辺
- 16-17 連載●異国の目から見たニッポン 第2回
アメリカ合衆国
カリフォルニア州編
ジョン・海山・ネプチューンさん
- 18-19 連載●がんばる地方都市 第12回
福島県郡山市
- 20 連載●おもて菓子 第8回
じゅうねんシフォンケーキ

【表紙解説】



手まりの形をした乗り物に乗って京都の街並みをゆったり散策する—もしこれが現実になったら、体験してみたいと思う人は多いでしょう。「第10回 未来エレベーターコンテスト」で最優秀賞を受賞した作品は、こんなおしゃれな乗り物を提案した「ひすとりのっぷ」です。最初に行き先と時間を設定すれば、渋滞を回避しながら目的地までガイド付きで案内してくれます。歴史的な風景や人物も、ゆかりのある場所でバーチャルに再現してくれるので、これまでにない観光体験を味わうことができます。



地球環境に配慮した植物油インキを使用しています。



特集 ● 交通と都市の未来形

第10回 未来エレベーターコンテスト

東芝が昇降機事業を開始してから50周年という年に迎えた2016年度の未来エレベーターコンテストは、なんとこちらも10回目という記念の年。今回は「IoT (Internet of Things)」をキーワードとした実用的なものや、斬新なアイデアが光るものなど優れた作品が数多く集まり、審査員を悩ませました。誌上では、そんな難関を突破し、見事、受賞した作品を紹介します!

募
集
テ
マ

IoT IoT 10

IoTが変える!
IoTで変わる!
年後の建築と
エレベーター



※受賞作品に関する詳しい解説は、以下のWebページでご覧いただけます。

<http://www.toshiba-elevator.co.jp/elv/newsnavi/volumes/contests/2016prize.html>

最優秀賞

Prize-Winning Works

ひすとりっぷ

～あなたと歴史をつなぐモビリティ～

和歌山大学大学院

村松 佑紀(むらまつ・ゆうき)さん

大西 智佳(おおにし・ちか)さん

佐藤 優美(さとう・ゆうみ)さん

和歌山大学

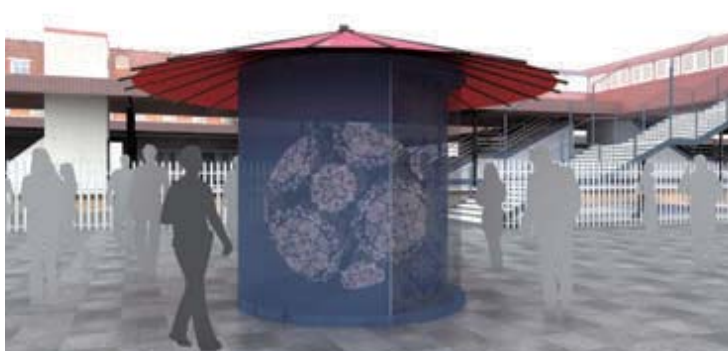
江里口 熙経(えりぐち・よしつね)さん

小幡 萌(おばた・もえ)さん

大枝 柊斗(おおえだ・しゅうと)さん

近藤 和樹(こんどう・かずき)さん

中尾 俊祐(なかお・しゅんすけ)さん



作 品 解 説

観

光都市として世界的にも人気の高い京都だが、訪れる観光客の多さがかえって混雑の原因となり、交通渋滞を引き起こしている。そこで考案されたのが「目的地に自律的に進む」エレベーターと「自由に好きなところに赴く」自動車の機能を併せ持った都市型の移動装置「ひすとりっぷ」である。ユニットの外観は歴史的なアイテム「手まり」がモチーフに採用されており、京都の街に調和するよう配慮されている。乗客は行き先、時間等を有機ELディスプレイ上で対話式に設定するだけでよい。情報はクラウドに送信され、交通状況等をもとにした最適なルートを選び出してくれる。こうしてユニットは渋滞を回避しつつ、乗客はガイド付きの個人ツアーに参加しているように、京都市内の観光を楽しみながら目的地へと進む。ユニット内では、一般的な観光スポットだけではなく、現在ではすでに失われてしまった史跡も案内する。ディスプレイ上には当時の風景や人物が再現されるので、その場にいるかのような臨場感で京都の歴史を楽しむことができる。

京都駅前には拠点となるセントラルステーションが、市内各所には休憩所のような外見のステーションが設けてあり、ユニットは自身のバッテリー残量が少なくなると、自動的に近くのステーションで充電を行うように設定されている。走行速度が時速5kmであれば、約15分の充電で約19時間の走行が可能である。



受賞者コメント

2020年の日本ではオリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、今後ますます観光客が増加すると予想されます。そこで私たちは、観光にこそ「IoT」が必要ではないかと考えました。

なかでも私たちが注目したのは京都です。金閣寺や銀閣寺、伏見神社や池田屋事件など、京都には歴史的に貴重な場所が数多くあります。そのため、観光ランキングでも京都は非常に高い位置にあります。大勢の観光客が押し寄せるために混雑してしまうという問題を抱えています。そこで私たちは、混雑の緩和に役立ち、かつ歴史を感じられるモビリティをつくればいいのではないかと考え、その解決策として、この「ひすとりっぶ」を提案させていただきました。



後列左から 大西さん 佐藤さん 小幡さん 大枝さん
前列左から 江里口さん 近藤さん 村松さん 中尾さん



審査員講評

今村 創平さん いまむら・そうへい
建築家 千葉工業大学創造工学部准教授
「提案の密度、プレゼンテーションの完成度、ともに高く評価できます。参加者が多いとアイデアが散漫になりがちですが、うまく明快にまとまっており、チームの結束力が強かったのではないかと感じました。」

谷口 守さん たにぐち・まもる
筑波大学システム情報系社会工学専攻教授
「提案全体の質感、着眼点、バランス感覚など、さまざまな観点からの評価が高い作品です。このような移動体に実際に乗って京都の街を回ってみたいと思う人は多いでしょう。和を感じるデザインも魅力的です。」

KIKIさん きき
「京都の街を手まりの形をしたモジュールが転がっていく様子を想像すると、わくわくした気分になりました。街なかへ溶け込むデザインも秀逸ですし、街角に埋もれた物を発見する楽しさなど、アイデアも豊富です。」

桑津 浩太郎さん くわつ・こうたろう
株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部
ICT・メディア産業コンサルティング部長
「エレベーターとモビリティの融合というテーマで、高層ビルと大都市ではなく、歴史と手まりを取り上げた発想に強く惹きつけられました。低速度で街に最適化された移動スタイルを提案している点も評価できます。」

藤田 善昭 ふじた・よしあき
東洋エレベーター株式会社 常務 統括技術部長
「この作品はビジュアルが群を抜いて素晴らしい点がありました。モビリティの内外にさまざまなビジュアルが提供され、歴史的な建物や人物がパノラマに再現されるというアイデアも面白いと思います。」

優秀賞

Prize-Winning Works

エレベーター 電梯の解体

首都大学東京大学院
吉川 学志 (ぎっかわ・たかし) さん



受賞者コメント

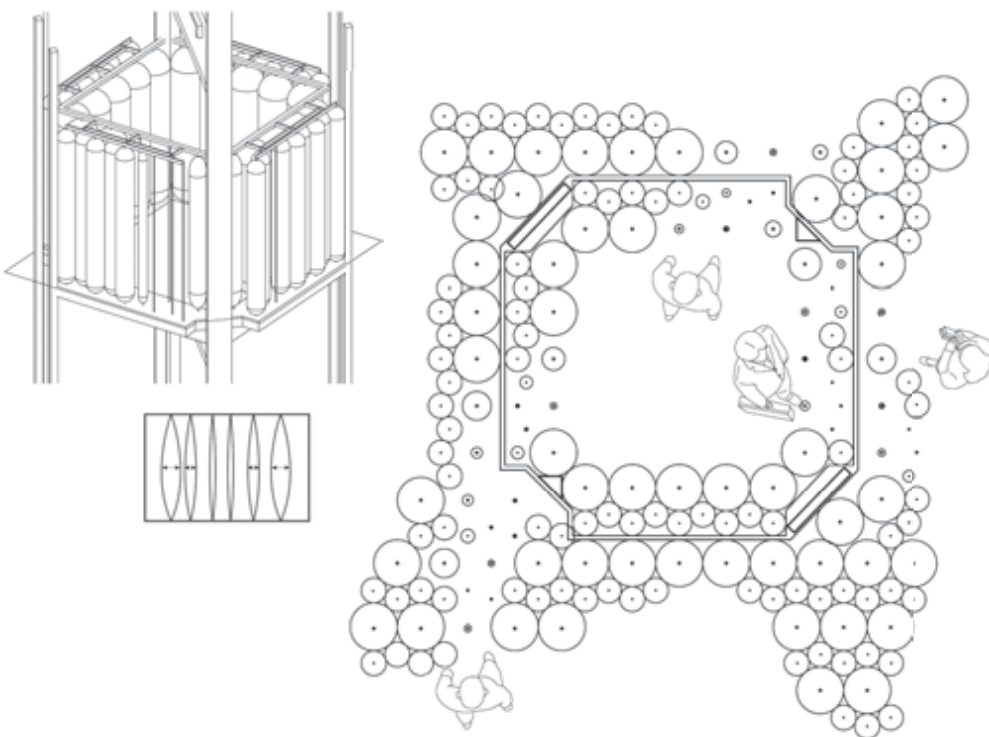
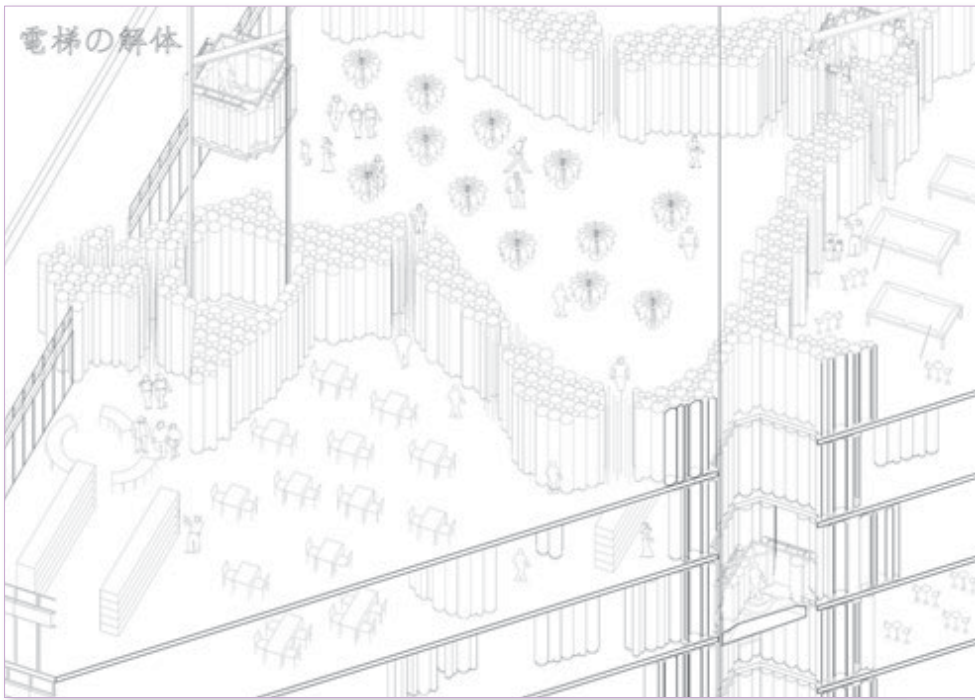
前 回の「シブヤヤマ ロープウェイ」での審査員賞に続き、今回は優秀賞をいただくことができ、大変うれしく思っています。今回の作品では、IoTの発達した世界でエレベーターという四角い箱がどう変わっていくのかを考えてみました。

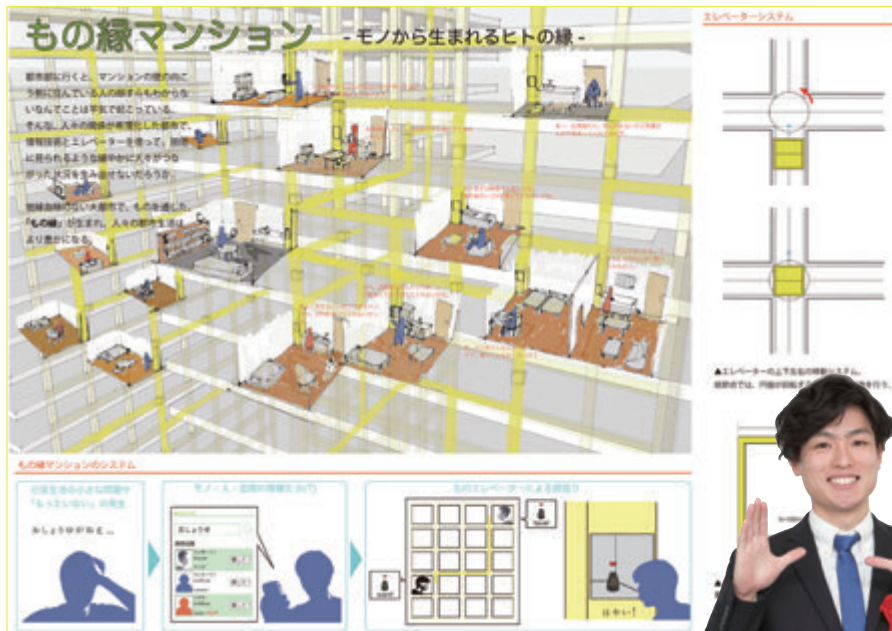
私が着目したのは、出入口の部分です。エレベーターの構造を工夫し、ドアの代わりに空気膜を用いれば、全方向どこからでも開閉できるようになり、エレベーターの可能性が広がるのではないのでしょうか。

作品解説

現在、多くのエレベーターはロープ式が採用されており、釣り合いおもりやかご用レール等のスペースを確保する必要があります。そのため、2辺もしくは3辺が塞がれてしまい、残りの部分にしか扉を設けることができない。そこで、おもりやレールの位置を対角線上の四隅に配置することによって、4辺のどこからでもエレベーターの乗降を可能にした。

エレベーターの4辺はセンサーを内包した塩化ビニル製の空気膜で覆われており、これがドアとして機能する。到着時には天井面に設けられた感知センサーが乗客の動きをキャッチして空気膜に伝え、乗客は降りたい方向に身体を向けていれば、その方向の空気膜内の空気が自動的に調整されてドアとして開閉する。空気膜は通路部分にも延長されており、最適の動線へと誘導してくれるため、混雑時でも乗降客はスムーズにすれ違うことができる。





審査員賞

Prize-Winning Works

もの縁マンション ～モノから生まれるヒトの縁～

東京大学大学院
川崎 光克 (かわさき・みつよし) さん



作品解説

都市部の希薄化した人間関係をエレベーターで結びつけ、それによりコミュニケーションの回復を図るのが「もの縁マンション」である。「もの縁マンション」では、リニア式の小型エレベーターがマンション内を上下左右自由に動き回る。マンションの住人は、シェアしてもよい所有物の情報をあらかじめクラウドに登録しておき、例えば牛乳を飲みたい人がいれば、飲んだ分だけの料金を支払えばよいシステムになっている。

審査員賞

Prize-Winning Works

あいむーぶ

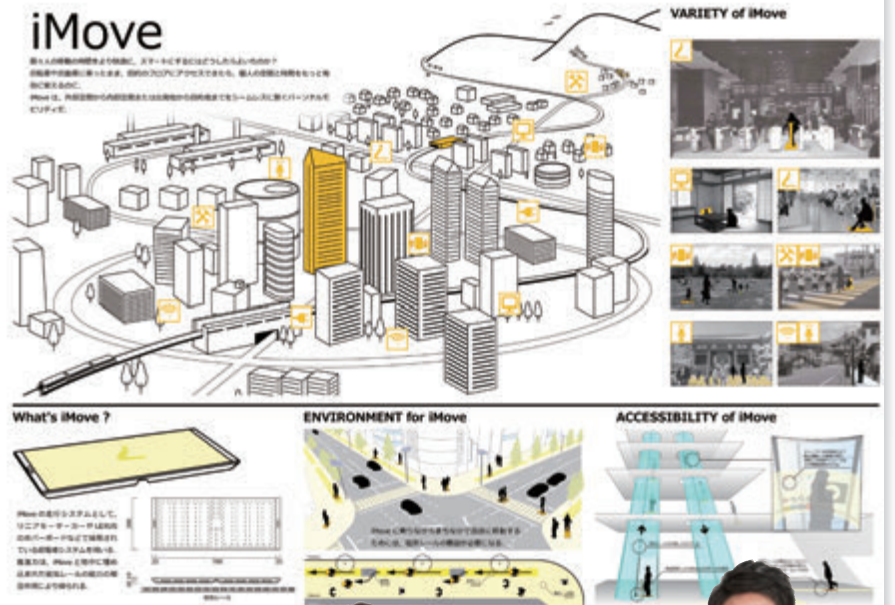
iMove

宇都宮大学大学院
鹿野 桃佳 (しかの・ももか) さん
野原 康弘 (のはら・やすひろ) さん

宇都宮大学
三浦 彩 (みうら・あや) さん
水落 夏緒 (みずおち・なお) さん

作品解説

「iMove」は、外部空間と内部空間、または出発地から目的地までをシームレスにつなぐパーソナルモビリティである。超伝導を使った浮遊走行システムが採用されており、歩道下に張り巡らされた磁気レールの上を時速5kmで自在に移動していく(専用レールを使って時速10kmで走行することも可能)。「iMove」はIoT技術を活用し、最短経路の探索や混雑の回避、個人の趣向に合致した情報の提示も行う。



写真左から 水落さん 鹿野さん 三浦さん 野原さん

審査員賞

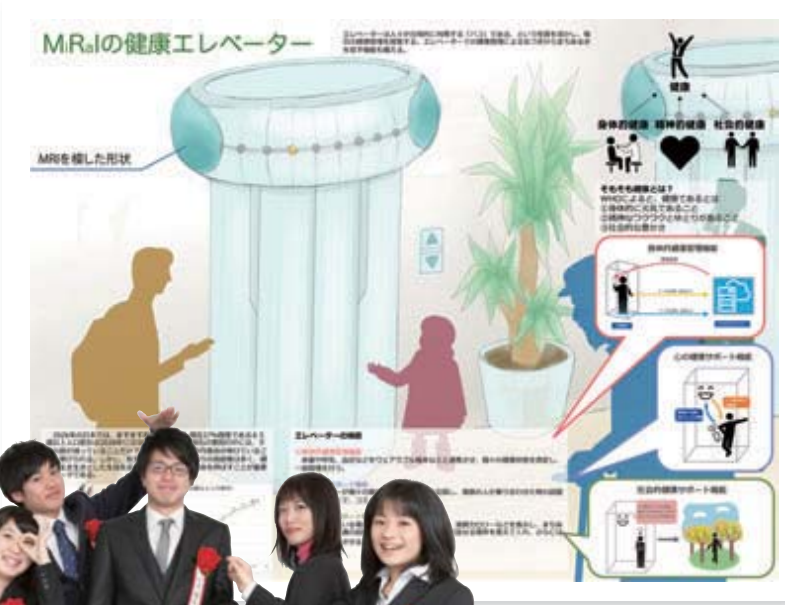
Prize-Winning Works

みらい

MiRaIの健康エレベーター

筑波大学

- 片山 茜 (かたやま・あかね) さん
- 小又 暉広 (こまた・あきひろ) さん
- 古川 真由 (ふるかわ・まゆ) さん
- 飯野 雅貴 (いいの・まさき) さん
- 友常 果歩 (ともつね・かほ) さん



写真左から 片山さん 飯野さん 小又さん 友常さん 古川さん

作品解説

「今」は、後ますます高齢化が進む日本では、健康寿命を伸ばすことが重要になってくる。「MiRaI」の健康エレベーターは、体重、皮膚温などのデータを自動測定する身体的健康管理機能、乗客の好む話題を話しかけることで心によい働きをもたらす心の健康サポート機能、健康を維持するための適切なアドバイスを提示してくれる社会的健康サポート機能を備えたエレベーターである。これにより乗客は、日常の健康管理が可能になる。

特別賞

Prize-Winning Works

ビジュアルエレベーター ~脈打つ都市へ~

早稲田大学

土屋 京史 (つちや・あつし) さん



作品解説

「ビジュアルエレベーター」は、「曲がるモニター」「折り畳めるモニター」の技術を応用し、内部空間をすべてモニターで覆ったエレベーターである。モニターには、IoT技術の活用により、リラクゼーション、アドバタイズメント、コミュニケーションを3本柱とする、乗客のニーズに合わせた映像が展開される。ビル全体もモニターで覆えば、その外壁を伝うように設置されたエスカレーターは、壁面を楽しむ乗物へと変化する。



プレゼンテーションでは、各作品の狙い、ポイントが熱く語られた



表彰式と記念講演

IoTの普及で 姿を変えるエレベーター

未来エレベーターコンテストの表彰式は、2016年12月12日(月)に東芝府中事務所で開催されました。当日は、受賞者によるプレゼンテーション、野村総合研究所の桑津浩太郎さんによる記念講演などが行われ、参加者全員、熱心に耳を傾けていました。

Awarding Ceremony & Memorial Lecture

活発な議論が展開された表彰式

未来エレベーターコンテストの表彰式は、東芝エレベーター常務統括技師長の藤田善昭による開会挨拶で始まった。「東芝の昇降機事業は、1966年に市場に参入して以来、今年で50周年を迎え、全社を挙げて多くのイベントを行ってきました。そして、このコンテストも今回でちょうど10回目を迎え、どちらにとっても記念すべき年となりました。この記念すべき年のテーマは「IoT」でしたが、固定観念にとらわれない斬新なアイデアを数多くご提案いただけました」と思っています。

挨拶終了後には、各受賞者に表彰状、トロフィー、賞金目録が手渡され、次いで受賞者によるプレゼンテーションが行われた。東芝エレベーター社員だけでなく、多くの学生から質問の手が挙がり、活発な質疑応答が繰り広げられた。

神経網として不可欠なIoT

式典の最後には、今回審査員としてもご参加いただいた桑津浩太郎さんにより「2020年のIoTとエレベーター」と題する記念講演が行われた。以下はその講演要旨である。

「IoTが話題になり始めたのはここ数年のことです。それまで先行段階にあったIoTは『マシン・ツー・マシン』と呼ばれ、主に自動販売機、メーター、ホームセキュリティなどの分野で使われていました。エレベーターにも遠隔監視の用途ですでに1980年代からIoTが取り入れられています。さらにIoTが普及していくなかで、エレベーターは非常に大きな可能性を秘めていると言いうことができます。

今後、プライバシー、産業間の軋轢あつれきなど多くの問題をクリアしていく必要がありますが、IoTの重要度が増してくるのは間違いないでしょう。なぜなら、少子高齢化が急速に進む現代において、労働力をこれまでどおり確保するには、さまざまなものを自動化せざるをえないからです。そのためには頭脳としてのAI、手足としてのロボット、そして神経網としてのIoTが不可欠な存在となります」



労働力不足がIoT普及の鍵と語る桑津さん



受賞作品の評価ポイントを語る谷口さんとKIKIさん



Round-Table Talk

審査員座談会

IoTの新たな可能性が満載！

IoTのトレンドを見通した作品群

IoTという難しいテーマだったにもかかわらず、今回もアイデア溢れる作品が多く集まり、審査員を大いに悩ませました。審査を終えたあとの座談会で話題に上ったのは……。



今村 創平さん

「IoTが持つ機能は、非常に大きな可能性を秘めています」

今回のコンテストのテーマに選ばれたのはIoT。最近よく聞かれるようになった言葉だが、学生の皆さんがIoTの持っている機能をどれだけ正しく理解し、それをエレベーターとうまく結びつけられるのか、審査員の間でも気がかりであった。しかし、いざ蓋を開けてみると、各自しっかりとこのテーマを咀嚼して、興味深い作品群が審査会の机上に並び結果となった。

谷口 非常にいい作品が多かったのではないかと思います。最初に「今回のテーマはIoT」とお聞きした時、これまでの未来エレベーターコンテストに応募してくる学生さんの専攻とや分野が異なるので、作品が集まるかどうか心配したんですが、結果的には前回以上の応募があったので驚きました。

今村 私も全体として手応えがありましたし、前回よりもよかったです。思う点が多々ありました。ですから、今回IoTをテーマに掲げたのは成功だったと思います。実は私も谷口さん同様、IoTというテーマだと発想が限定されるのではないかと懸念していたのですが、それは危惧に終わりました。例年と同じようにバラエティに富んだ作品が多数寄せられたのでよかったです。



谷口 守さん

「健康関連の提案が複数あったのは時代を反映していますね」



●桑津 浩太郎さん
株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部 ICT・メディア産業コンサルティング部部長。京都大学工学部数理工学科卒業。専門は情報通信、ソリューション分野における事業戦略、マーケティング戦略支援。著書に「2030年のIoT」(東洋経済新報社)など。

●谷口 守さん
筑波大学システム情報系社会工学域教授。京都大学工学部助手、カリフォルニア大学客員研究員、岡山大学環境理工学部教授などを経て、2009年より現職。著書に「ありふれたまちかど図鑑」(共著、技報堂出版)など。

●今村 創平さん
建築家、千葉工業大学創造工学部准教授。アトリエ・イム主宰。早稲田大学理工学部建築学科卒業。主な建築作品に「富士ふたば幼稚園」など。著書に「現代都市理論講義(オーム社)など。訳書として「20世紀建築の発明」(鹿島出版会)。

●KIKIさん
モデル。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。雑誌の連載執筆、広告・TV出演など多方面で活躍しており、近年は芸術祭に作家として参加するなど活動の領域を広げている。著書に「山が大好きになる練習帖」(雷鳥社)など。

●藤田 善昭
東芝エレベーター株式会社 常務 統括技師長。東京大学工学部卒業。東芝エレベーター株式会社技術本部開発部長、エレベーター担当技師長、技術本部長を経て、現在に至る。



今回、審査員として参加して下さったIOTに詳しい桑津さんも次のように語った。

桑津 当初はモノとモノをつなげることから始まったIOTも、今では人をモノと捉えて、モノと人との間でやりとりするというのがポイントになっています。今回のIOTとエレベーターを結びつけるテーマでは、健康あるいはコミュニケーションを題材とした作品がいくつかありましたが、いずれもエレベーターと人との接点の部分で、IOTの活用を考えていました。学生さんは世の中の流れの先にあるものを見ていらっしやるんだなど感心しました。

目指せ！ IOTの新たな展開

今回、惜しくも選に漏れた作品のなかには、「IOTを用いた精算機能付きロッカー型エレベーター」という、発想を評価されたものもあつた。**KIKI** 今、デパートによって、買った品物を売り場に預けておいて、帰り際に駐車場の入口で受け取る、というシステムを導入しているところがあります。



KIKIさん

「人と人の関係もIOTで
ずいぶんと変わってくるのですね」

そのデパートでは、人が駐車場まで運んでくれるのですが、この作品のように、どこかに品物を入れるだけで駐車場や自宅まで自動的に運んでくれるシステムができたら便利です。デパートに限らず、スーパーやコンビニでもいいのですが、日常の買い物の延長線上で使えるサービスがあるとすごくいいなと思いました。この作品は発想が非常に面白いのですが、発想止まりになってしまっていたのが残念です。

この作品が選から漏れた理由の1つは、ビジュアルの弱さだった。座談会では、複数の学生でチームを組み、各自の得意分野を活かして共同提案するといったのでは、という意見も出た。

藤田 専門の異なる学生さんがチームを組んで仕上げた作品には、以前から完成度の高いものが多い

かつたように思います。ビジュアルはデザイン系の学生さんが担当し、仕組みは機械系の学生さんがきちんと考えて、両者がうまく組み合わさるといい作品ができるのではないのでしょうか。

今村 「iMove」も、地球環境デザイン、システム創成工学、建築の学生さんが一緒にやっていますね。そうしたこともあり、「iMove」は盛りだくさんの内容になっていました。また、受賞作品を決める議論のなかでは、「未来」を謳っているコンテストなので、IOTのさらなる発展形を見すえた案がもつとあつてもよかつたのではという意見も出ました。

谷口 僕は、これからのIOTがインターネット・オブ・シングズからインターネット・オブ・タウンになるだろうと考えています。しっかりとセキュリティ

管理のもと、ビルだけに限定せず、まち全体で収集されたデータがうまく活用されていくのではないのでしょうか。その意味では、まちとのやりとりにも少し踏み込んだ提案があつてもよかつたのではないかと思います。

IOTにはまだまだ新たな可能性がありそう。今回の提案をさらに発展させていけば、その延長線上に新たな展開が見られるかもしれない。



藤田 善昭

「これからのエレベーターは
ソフト面の充実が必要です」

桑津 浩太郎さん
「IOTは縁の下の力持ち。
陰で私たちを支えているんです」

Organizer's Message

主催者メッセージ

10年という 節目の年を迎えて

2007年から始まった未来エレベーターコンテストも
今回でいよいよ10回目。

東芝エレベーター常務統括技師長の藤田善昭が、
改めてこのコンテストへの思いと
10年間の変遷を語ります。

藤田 善昭

東芝エレベーター常務統括技師長

コンテストを開催する意義

未来 エレベーターコンテストが
10周年を迎えることとなり、
大変うれしく思います。

私はこのコンテストに、大きく分けて3つの意義を見いだしていました。1つ目は、このコンテストをきっかけとして、皆さんにもっと私たちの会社のことを知っていただきたいということです。「東芝」の名前は皆さんご存じですが、このコンテストを主催している弊社の名前は、それほど馴染みがあるわけではありません。これを機に知っていただけたらと考えています。

2つ目は、社内の若い技術者たちの刺激になればという思いです。学生さんたちの年齢より少し上の彼らは、おそらく学生時代に、コンテストに応募してくる皆さんと同様に、制約のない自由な発想で考えていたことでしょう。

第3回

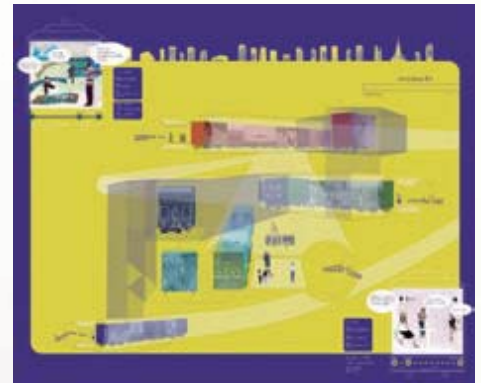


地域コミュニティを活性化する未来の交通

【作品名】「東京水系2030」

【概要】新たな乗り物（KURAGE）を核として、東京の水系ネットワークの再構築を図る提案。

第1回



未来の小規模都市空間における
移動装置のアイデア

【作品名】「cabillary tube」

【概要】地下鉄の車両単位で目的地を設定し、
人が乗った車両をそれぞれの目的地に運ぶシステム。

第2回



未来の垂直・斜行交通

【作品名】「Hydrovator

—都市を貫く、都市を繋げる—」

【概要】ガラス強化プラスチックを用いた
チューブエレベーターシステム。

第4回



地域を観光で活性化する未来の交通

【作品名】「イカダネット」

【概要】水陸両用のイカダを移動手段にして
瀬戸内の島々に新しい文化を創造しようとする提案。

10th
Anniversary

未来エレベーターコンテスト
歴代最優秀賞作品ギャラリー

未来エレベーターコンテストには、この10年の間に学生さんのユニークなアイデア満載の作品が数多く寄せられてきました。歴代の最優秀賞受賞作品を一挙に掲載しますので、お楽しみください！

しかし、会社に入ると、どうしてもルールに従った形で物事を考えるようになります。もちろん、それは仕事を行ううえで大切なことではありますが、その一方で、そんな技術者たちに、以前は自分にも自由に発想していた時期があったことを思い出してもらいたい。日頃とは、また別の角度からエレベーターを見てもらうことで、頭のなかをリフレッシュしてもらえればと考えています。

3つ目は、弊社のエレベーターに直接活かせるようなアイデアは無理であるとしても、学生さんの新鮮な視点で開発のヒントをもらうことです。今回の提案にも、私たちには思いつかないアイデアがいろいろ含まれていて、参考になったと思っています。

社会性、実現性のある作品が増加

10年間続けてきたことで、このコンテストの方向性は、かなり定まってきたように思います。

最初の頃を振り返ると、実現性が乏しく、いかに大きな風呂敷を広げるかを競うようなところがありました。しかし、この10年の間に東日本大震災が起こったこともあって、応募作品に社会性が強く反映されるようになり、より実現性のある作品も見られるようになってきました。主催する側の意識としても、夢のような提案より、ある程度技術的な裏づけがある提案を求めるようになってきました。最近の作品を見ると、全体のレベルが以前に比べて、かなり向上してきたと感じています。

第7回



エネルギー自律都市

【作品名】「NITROGEN MOBILE STYLE」

【概要】窒素をアンモニアに変換する根粒菌と窒素固定菌を使ってエネルギー自律都市の実現を目指す提案。



エネルギー自律都市

【作品名】「楽しい街 TANO CITY ~エレベータでつながる都市~」

【概要】エレベーターを食糧生産タワーとし、都市内で使用する電力は環境発電で賄おうとする提案。

第8回



地域を活性化する、社会に優しい未来の建築と交通

【作品名】「Vertical Hydrogen City」

【概要】燃料電池自動車のための水素ステーションの拠点になり、高齢者にも配慮した都市の提案。

第5回

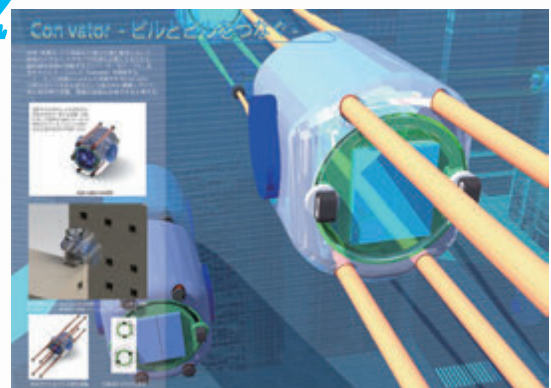


空港と未来交通

【作品名】「ROOT -Urban Transport-」

【概要】東京近郊の都市と羽田・成田空港を地下で結ぶ超高速貨物輸送シャトルシステム

第6回



スマートエレベーター

【作品名】「Con vator -ビルとビルをつなぐ-」

【概要】どんな場所でも自由に移動できる高齢者向け短距離移動エレベーターシステム。

第9回



乗って楽しいエレベーター

【作品名】「High Velo-city」

【概要】自転車の持つ可能性や楽しさを拡張できる自転車専用高速エレベーター。

お江戸の 楽しい 歩き方

第5回

赤羽周辺



門人&文
匠
タレント/歴史作家
堀口 茉純さん
(愛称:ほーりー)

師
地図研究家
芳賀 啓さん

はが・ひらく・1949年生まれ。東京の古地図や地誌の研究者で、東京経済大学客員教授、テレビ朝日「タモリ倶楽部」などのテレビ番組にも出演。主な著書に『江戸の崖 東京の崖』(講談社)、『古地図で読み解く 江戸東京地形の謎』(二見書房)など。

ほりぐちますみ・1983年生まれ。2008年に江戸文化歴史検定一級を最年少で取得し、「江戸」に詳しくするタレント。お江戸ル(お江戸のアイドル)として知られる。主な著書に『TOKUGAWA15』(軍思社)、『UKIYO E17』(中経出版)など。

1 亀ヶ池弁財天

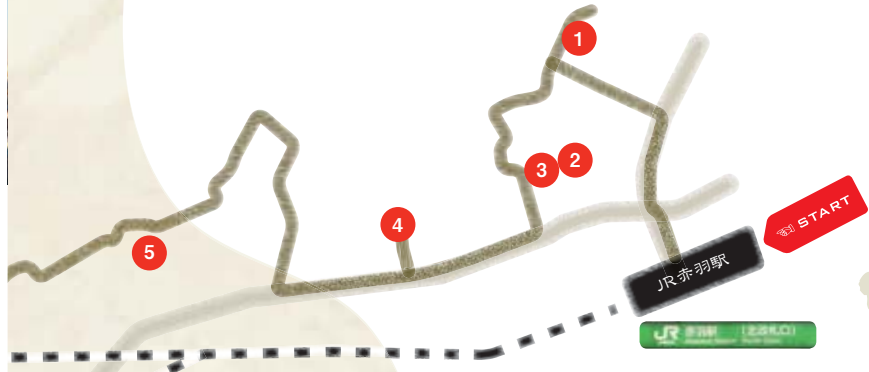


このあたりに大きな池があったなんて！
まったく面影がありません。

2 静勝寺



歴史に思いを馳せるのもってこいの静かな境内です。



本日の
お題

- 宅 赤羽の名の由来は？
- 式 日光街道と日光御成道の違いは？
- 参 東京の三大銀座商店街はどこ？

3 稲付城跡



崖上は山城をつくるのに好立地。太田道灌が目をつけたのもうなずけます。

4 赤羽西二丁目地区 急傾斜地



どうですか、この見事な絶壁！
写真の撮り甲斐があります。



【赤】台地の側面の赤土が夕日などに照らされて赤く見えたとから。もともとは赤埴(あかぢ)かには、赤土の意味で、埴は粘土を表す言葉と呼ばれ、転じて赤羽となったとか。

赤羽には台地と谷と イイ崖がある！

今回のスタート地点はJR赤羽駅。特に何があるわけでもないけれど、いつも賑わっている印象です。「かつて駅前の台地の上に陸軍施設があった。戦後、その跡地に都内最初の大規模団地ができてたくさんの方が住むようになったんだ」と師匠。その台地の赤土(赤埴)が赤羽という地名の由来になっているんですって。

なんでも、赤羽付近には台地とそれを侵食してできた谷が3つあったとか。谷底には川や池があったそうなんです。現在は埋め立てられてその面影はありません。

亀ヶ池弁財天の池は往時を偲んで新しくつくられたもの。そして、台地の上にある静勝寺境内は、かつて太田道灌が築城したとされる稲付城があった場所なんだとか。近くに急傾斜地崩壊危険区域に指定された崖があり、「イイ崖だ」と写真を撮りまくる師匠に釣られた私もスマホでパシャリ。師匠に感化されてすっかり崖フェチの仲間入りです。

歴史と活気が共存する町

台地の上から谷を見下ろせる絶好のビューポイント・香

5 香取神社



上るのは大変ですが、眺めは最高です！

6 清水坂公園



公園の下には災害時のための水が貯められているそう。

たくさん歩いたけど、充実のコースでした。お疲れ様〜！



8 十条富士見銀座商店街



2つの商店街が連なっている巨大アーケード。



あこがれのお店が...魅力的なお店が...お買い物した〜！



7 清水坂



師匠のスマホアプリで地形の高低差を確認。フムフム...

【参】前者は五街道、(五街道以外の主要幹線道路のこと)。日光御成道は別名・岩槻街道で、將軍の日光社参の専用道路でした。



9 篠原演芸場



大衆演劇の手書き看板。味があります。



今回の締め的一句

赤羽の崖あかき秋蟻忙し

崖下り谷を登って猫の恋

取神社周辺ではたくさんさんの町猫に遭遇。おデブさんが多かったのは、きつとみんなに可愛がられてたつぷりご飯をもらっているからですね。

小休憩をとった清水坂公園は、このあたりで清水が湧き出していたことからつけられた名前だとか。現在は親水公園として地元の人たちの憩いの場になっています。公園の東側にある清水坂は江戸時代に日光御成道(岩槻街道)が通っていた場所。江戸時代に描かれた江戸のガイドブック『江戸名所図会』にも掲載されている崖べりの街道です。この道を華やかな将軍行列が通っていたのか、十条駅にたどり着く途中にあり、十条富士見銀座商店街につながる十条銀座商店街は加盟約200店を誇る巨大商店街。お肉屋さんに八百屋さんなど小さな専門店がいくつも立ち並び、どこかノスタルジックな雰囲気です。駅近くには大衆演劇の芝居小屋・篠原演芸場も。歴史と活気が共存する、魅力的な町でした。



異国の目から

ニッポン

見た

② アメリカ合衆国
カリフォルニア州編

ジョン・海山・
ネプチューンさん

尺八演奏家・作曲家



John Kaizan Neptune ●1951年カリフォルニア州オークランド生まれ。2歳の時同州サンディエゴに移り、小学5年生の時にトランペットを始める。サーフィンが好きでハワイ大学に進み、民族音楽を専攻。尺八に魅了され、二度来日した。その後は日本に住み、演奏・作曲・楽器づくりを三本柱に音楽活動続ける。今では、左の写真のような太鼓も手がける。



尺八に込められた魂の響き

尺八の音色に魅せられて

今回は、千葉県鴨川市に居を構える尺八演奏家・作曲家のジョン・海山・ネプチューンさんを訪ねて、お話を伺った。音楽好きだった父親の影響で、ネプチューンさんは小学5年生の時からトランペットを始めた。彼が育ったサンディエゴは海の街だったこともあって、高校時代はサーフィンに熱中した。そして、サーフィンができるという理由で進学したのがハワイ大学。大学では民族音楽を専攻し、南インドの歌、ガムラン、雅楽など、さまざまな国の音楽に触れた。

ある時、レコードで聴いた尺八の音に思わず惹きつけられた。自分でも吹いてみたいと吹ける人を探した。あいにく大学にはいなかったが、近くの本願寺ハワイ別院のお坊さんが吹けると知って、すぐさま弟子入りを目指した。

「尺八は1本の竹でつくられたシンプルな楽器ですが、ほんの少し吹き方を変えるだけで微妙に音色が変

アメリカ合衆国カリフォルニア州 / 基礎データ



州都サクラメント
©Aegis Maelstrom

- 面積…約42万4000km²(日本の約1.1倍)
- 地理…州都はサクラメントで、ロサンゼルス、サンフランシスコなどの大都市を擁する。気候は地域によりまちまちだが、サンディエゴは地中海性気候で比較的過ごしやすい。
- 言語…主として英語。
- 交通…都市によってバス、地下鉄、路面電車などが走っているが、面積が広いため、自動車が主流。サンフランシスコではトニー・ベネットの名曲「霧のサンフランシスコ」に登場するケーブルカーが有名。



ネプチューンさんの代表作を収録したアルバム(右)と、愛用の尺八(左)。通常の尺八と比べて手孔の位置や大きさを変えるなど、独自の工夫が施されている。



化する玄妙な楽器なのです」

すっかり尺八の世界に魅了されたネプチューンさんはもっと高みを目指したいと望み、1973年に日本を訪れた。京都に住む都山流の三好荒山師(けんざん)に入門、1年間尺八を学んだ。いったんホルルへ戻って大学を卒業したネプチューンさんは、1977年京都に戻る。と、再び師のもとで数年間学び、師範の資格を得た。「海山」の名前はこの時もらったものだ。

ハワイ大学で院に進み教師となる道もあったが、彼が選んだのは日本に残り、尺八で身を立てることだった。最初は尺八を教えたり、民謡の伴奏をしたりと尺八に関することなら何でもやった。やがて作曲も手がけるようになり、フュージョンジャズのアルバム『パンプ』で1980年文化庁芸術祭優秀賞を受賞した。最新アルバムは24枚目となり、今では、尺八を手に世界を飛び回るアーティストとなっている。

言外の意味するもの

そんなネプチューンさんに日本の魅力を尋ねた。すると彼は、日本人の優しさだと答えた。

「何でも言い合える、非常に親しい製管師(尺八をつくる人)がいるんです。ある時私が、彼のつくった尺八を吹き、彼について『鳴らないことはないですが……』と言ったことに自分でも驚きました。昔だったらストリートに『これはダメです』と言ったでしょう。『……』で相手に伝える日本の優しさが自分にも身につけていて、そんな日本の優しさが私は大好きです」

日本語に「言外の意を汲み取る」という言い回しがある。この基盤にあるのは、直接言わないことで相手を傷つけず、しかも思っていることを伝えるという、発言者側の姿勢だ。ネプチューンさん自身が、その微妙な表現をいつの間にか身につけていたのは、尺八という楽器を通して、彼が日本人の心までをもしっかりと受け継いでいるということではないだろうか。彼の尺八が心を打つのは、そんなところにもあるに違いない。



ネプチューンさんが子どもの頃に暮らしたサンディエゴ。青い海と空が広がるなか、超高層ビルが立ち並ぶ美しい街だ。

いい環境が整っています。しかし、新しいホテルは別として、古いホテルに設置された、ガタゴト動く昔のエレベーターはいただけません。日本に住んでいると気づきにくいのですが、日本では地方に行っても快適なエレベーターが完備されていて、その技術力には改めて感服させられます。

それぞれの国に違ったよさがあります。私の育ったサンディエゴには、サーフィンのできるいい場所がたくさんありますが、私の今住んでいる房総半島にも、サンディエゴと波は違うものの、サーフィンに適した海岸がいくつかあります。ニューヨークには、コンサートや録音など仕事で行くことが多いのですが、ここは音楽をやるにはとても



かんはる 地方都市

第12回

福島県郡山市



福島で安全で美味しい 食材を届けたい！



今回の
キーパーソン

株式会社福豆屋 専務取締役

小林 文紀さん こぼやし・ふみき

ピンチを最大のチャンスにできるよう、
気負わずに一つずつ進んでいくことです。

NPO法人プロジェクト福島屋商店 事務局長
馬場 幸蔵さん ばばこうぞう

5年、10年先の遠い目標だけは忘れずに、進んでいってほしい。
それがブレないこつだと思えます。



起き上がり小法師



郡山市
マエバシ
とこうな

- 人口：約33万6000人
- 面積：757.20km²
- 概要：福島県の中央に位置する商都。鉄道や幹線道路を介して東西南北どちらの方向にも移動できる交通の要衝
- 特徴：江戸時代に宿場町になり、明治期に安積(あさか) 疏水が開削されて以来都市化が進んだ。音楽活動が盛んで、2008年に「音楽都市」を宣言した
- 特産品：鯉、ゆべし、薄皮饅頭など

お金では買えない 財産を守る！

「駅弁屋は、電車の窓が開かなくなったら、厳しい時代になる。ただ、従業員と工場は、どうやってお金では買えない財産だから、頑張るってほしい」

闘病中の父親の言葉に、当時、東京でOLをしていた小林文紀さんは、大正時代から続く老舗の駅弁屋「福豆屋」の跡を継ぐことを決意。1995年4月に入社した。

しかし父の言葉ごとおり、駅弁屋は斜陽産業。福島県内に4社あった駅弁屋が、一つ、また一つと姿を消していくなか、「ヒット商品の開発から資金繰りまで、なんでもやりました」と、当時の苦勞を心に秘め、笑顔をみせる小林さん。

さらなる苦勞を乗り越えて

10年前、ご主人を亡くされた悲しみに負けず、2人の子どもを細腕一つで支えてきた小林さんに、さらなる苦難が襲った。あの3・11、14時46分に起こった東日本大震災だ。

「社員全員が戻ってくるまで待ち、それから子どもを学校に迎えに行ったんですが、下駄箱から靴を出せなかった子どもたちは、スリッパ姿で、暗い雪のなかの校庭に立っていました。そんな子どもたちを連れ避難所に移動する途中、駅舎が真っ暗で、電車が止まっているという光景を生まれて初めて見たんです。これが一番ショックでした」と語る小林さんは、今でもその光景が忘れられないという。

そんななか、一条の光は工場がガスも電気も水道も無事だったこ



大槻車庫

TOPIC

郡山市では、拠点自動車からバスに乗り換え、目的地まで移動してもらおうパーク・アンド・ライドに取り組んでいる。中心市街地の交通渋滞の緩和が目的で、拠点の「大槻車庫前」には40台分の無料駐車場がある。病院や大規模商業施設などを経由して郡山駅に行くバスもあり、市民の足として愛用されている。



藤谷浩介の ここがポイント!

四季のはっきりした福島県の食材は超一級。厳密な検査で他県産以上に安全ですが、風評被害は続いています。この不条理と戦う小林さんと仲間たちは、でもいつも前向き。お弁当にも通販商品にも、その明るいパワーが一杯に詰まっていますよ。皆さんも是非お買い上げを!

もたに、こうすけ◎日本総合研究所 主席研究員。日本の全市町村を訪問し、地域特性を多面的に把握。登壇・出演・寄稿等は年間1300件を超える。著書に『里山資本主義』しなやかな日本列島のつくりかた』など。



福島県の食材を使った新商品を日々開発している道の駅「たまかわ」駅長の穂積俊一さん。



「たまかわ」で販売されている雑味のないトマトジュースとキウイの先祖といわれるさるなしのジュースは絶品。



福島屋商店に出品するにここバラ園のオーナー・伊丹雅昭さんは、大阪から移住し、阿武隈連峰の裾野で年間20万本のバラを生産。



香り豊かなバラジャムも販売。



放射線物質の検査を受け、安全性を認証されたシンボルマーク。



鯉を天井にした「恋する鯉井」は、郡山市と県南鯉養殖漁業協同組合が運営する「鯉に恋する郡山プロジェクト」の力で実現。



福島県で唯一の駅弁屋となった福豆屋の「海苔のりべん」は、JR東京駅の「駅弁屋祭」に到着するや否やすぐに完売する超人気商品。



創業250年の老舗・笹の川酒造の山口哲蔵さんは10代目。福島屋商店でも、特別純米酒「山桜」は大人気。



「ここだけ、今だけ、あなただけ」の特別な商品が満載の「福島屋商店」や、楽しいイベントを告知する「福の島プロジェクト」のサイトも大人気!

風評被害の克服を目指して

と。「仲のいい新潟県や山形県の駅弁屋さんが、容器やガソリンを持ってきてくれました。それがあったから今があるんです」と語る小林さんは、仲間の助けに感謝しながら休まずに駅弁をつくり続けた。

福島県の民芸品「起き上がり小法師」のように、何度でも立ち上がる小林さんは、風評被害にも屈しなかった。

大震災の2カ月後に、風評被害の克服を目指して設立宣言したネットショップ福島屋商店の事務局長・馬場幸蔵さんの考え方に賛同。ネットだけでなくイベントもやってほしいという県からの要望に、福の島プロジェクトを設立し、7月から馬場さんとともに活動を開始した。

「全国物産にぎわいまつり（浅草寺）への出店を皮切りに、7月から翌年の3月までの間に、20ものイベントを行いました。今日は東京明日は川越、翌日には会津……と駆け回る日々でした。小林さんと一緒に夢中でやったよね」とバイタリティ溢れる馬場さん。

3年後には風評被害の発生要因について、社会心理学的な視点で研究を続けている立命館大学文学部応用社会心理学の佐藤達哉ゼミに所属する学生で構成されたサト

ゼミエンタープライズとともに、二人称的情報伝達活動を開始。「子どもや友人など信頼でき

る人（二人称）から、福島県の野菜は安全で美味しいよという情報を伝えられると、これまで福島県の野菜は危険だと思っていた人でも、福島を応援しよう、福島は心配ないという意識に変化してくるんです」と語る馬場さんの地道な努力は、確実に実を結びつつある。

また、今年の1月17日から18日間、郡山市の活性化を目指し、特産品の鯉を使用した「恋する鯉井」を郡山市役所内の食堂「花かつみ」で提供。午前中には完売する超人気メニューとなった。

そんな馬場さんと小林さんの次の目標は、「福島県の野菜の安全性や美味しさを一人でも多くの人に伝えられるよう、生産者がヒーローになって購買者と交流できる場をもっと提供したい」と馬場さん。「将来、子どもたちが明るく賑わいのある生活を築けるような道筋をつくりたいと思っています」と小林さん。希望に満ちた2人の瞳と明るい笑い声は、多くの人に元気に勇気を届けてくれるだろう。



福島県の新鮮な野菜や果物を使用したフレンチをホテルで堪能できるイベント「フレンチの夕べ」は毎年大人気。

じゅうねんシフォンケーキ

【特定原材料】小麦・卵・牛乳



「人と地域を笑顔で結びたい。という思いで、店名を yui (結) としました」(遠藤談)
ホームページはこちら <https://www.miyakoji-sweets-yui.com>

ふんわりとした生地に、控えめな甘さ。気がつくとはロールの半分以上を食べている……なんてことも。

この絶妙な美味しさの「じゅうねんシフォンケーキ」を誕生させたのは、遠藤由梨子さん(30歳)を中心とする地元的女性7名です。

東日本大震災からの復興と、地域の活性化を目的とした地域産業6次化(※)の取り組みの一つとして、地元都路の卵やじゅうねん(エゴマ)を使ったスイーツを開発。2016年3月、町で唯一のプリンとシフォンケーキのお店をオープンさせました。

「最初はサラダ油の代わりにじゅうねん油を使用しましたが、思った効果は得られず、値段が高くなるだけでした」と語る代表の遠藤さんが、次にチャレンジしたのは、じゅうねんの実を生地に練り込むことでした。しかし、実をそのまま入れたのでは、粒が邪魔になるばか

り。最終的にたどり着いたのが、実を粉末にして、生地に混ぜ合わせることでした。

「じゅうねんの粉末を混ぜ合わせたことで、通常のシフォンケーキより優しい甘さになりました」と、弾むような笑顔で語るスタッフの渡辺柚香さん(22歳)はじめ、スタッフ全員の太陽のような笑顔に、店内はいつも暖かな安らぎに満ち溢れています。

「地元の人のコミュニケーションの場になってほしい。という思いで、日々新しい商品を考案中です」と語る遠藤さんの瞳も、希望でキラキラと輝いていました。

※農林水産物の生産(第1次産業)だけにとまらず、その加工(第2次産業)や販売(第3次産業)もトータルに推進すること。



ここがポイント
じゅうねん(エゴマ)の実の粉末と、真っ黄色の都路の卵

プロから、ひと言!

シフォンケーキが生まれたのは1920年代のアメリカ・ロサンゼルス。エアリーに焼き上げられたケーキは当時の人たちを魅了し、そのレシピは20年もの間、門外不出だったそうです。こちらのシフォンケーキも、箱を開けると目を見張るポリウムにまず魅了されます。なのにいくらでも食べられてしまうような軽さはまさしくシフォンのような。スーパーフードとして注目のエゴマの風味がどこか懐かしくて、日本茶にもよく合います。こってりとした味わいの西洋菓子はちょっと苦手といったご高齢の方にもお勧めです。



料理研究家
フードコンサルタント
上村 泰子氏



かみむら・やすこ
フード・アイ代表。企業やレストランのフードコンサルティング、メニュー開発に長年従事し、新聞、雑誌、講演会などでも活躍。著書や監修本は60冊以上ある。簡単でヘルシーな料理提案と親しみやすい解説で人気を得ている。